

青牛式トレードマスター講座

なぜシステムトレードではなく裁量トレードを採用するのか



AIの開発・進歩に始まり、スマホ、電子決済、自動運転などの「自動化」が加速する世界において、なぜ「わざわざ」裁量トレードを選択しているのか。

驚くべき早さでの技術進歩の時代背景を考慮すれば、その行為はある意味、荒唐無稽であり、時代と完全に逆行しているのがよく分かるのではないだろうか。

青牛式トレードマスター講座

このコンテンツでは、トレーディングにおける「裁量か、システム（自動売買）か」の議論について、一つの答えを提示したいと思います。

※当内容は、私の師にあたる方から継承した内容をもとに構成しています。

システムトレード（自動売買システム）界の権威的な雑誌である futures truth magazine によると、最も広範に活用され、長期的に優位性を維持しているシステムは大きく分けて6つあり、その中でも1、2、3の3つの優位性の高さが実証されています。

1. Donchian Channel Breakout Trading Strategy

2. Moving Average Crossover Trading Strategy

3. Opening Range Breakout Trading Strategy

4. S&P Day Trading Strategy

5. Keltner Channel Breakout Trading Strategy

6. Bollinger Band Breakout Trading Strategy

各システムの概要は次のとおりですが、詳細は各自で調べてください。

青牛式トレードマスター講座

1. Donchian Channel Breakout Trading Strategy

インディケータを一切使わずに、価格を基準とし直近最高値抜けて買い、直近最低値抜けて売るという最も原始的でシンプルなシステム

2. Moving Average Crossover Trading Strategy

移動平均線交差システム

短期線が長期線を上抜いたらロング下抜いたらショートというドテン売買のような手法で、世界的な大手金融機関等があらゆる複雑なシステムを検証した結果、この手法が最強という結論を出したほどシンプルで優位性が高い手法でもある。

3. Opening Range Breakout Trading Strategy

短期ボラティリティに基づくレンジブレイク戦略

始値の値を基準に、価格が始値よりも一定幅動いた時点で、その方向に順張りする手法。

4. S&P Day Trading Strategy

銘柄固有のボラティリティの大きさを利用した手法

青牛式トレードマスター講座

5. Bollinger Band Breakout Trading Strategy

ボリンジャーバンド上下のバンドへのタッチを基準としブレイクアウトでエントリー

6. Keltner Channel Breakout Trading Strategy

5と同じ考え方をケルトナーチャンネルで表したもので、中央線は終値ではなくピボットポイントで形成するのが特徴

まずこれらは全て、**中長期トレンドフォロー戦略**か**短期モメンタムの初動を抜く戦略**であり、長期的に優位性を維持できるシステムトレードは、これら2つのいずれかであることが膨大な検証作業によって実証されています。

また、短期、中期、長期のいずれの時間軸でも優位性の高いトレードができるということは、「あらゆる時間軸でモメンタムは成立する、または、継続する」と表現することができるものの、むしろそれは、**モメンタムが「あらゆるスケール」で成立する**ことも同時に意味しており、このスケーリングの構造に

青牛式トレードマスター講座

よって、相場参加者に無限の解釈と可能性を生み出しているのがチャートとい
う世界です。

つまり、全てのトレードは、順張りであり逆張りでもある。

個々が採用するスケーリングによって、その価格でのトレードはそれぞれ全
く違う意味を持つということ。



青牛式トレードマスター講座

「あらゆるトレーダーがいる」その一つの例として、次の内容を見て欲しいのですが、このような状況が相場の世界の「普通」であることに異論はないでしょうし、採用する時間軸によっては、驚くべきことに次の全てのトレーダーが利益を手にもすることもでき、その逆に全員が損失となることも起こりうることは容易に想像できますよね。

M1 順張りしているトレーダー

M5 逆張りしたいトレーダー

M15 逆張りしているトレーダー

M30 順張りを狙っているトレーダー

H1 逆張りを狙っているトレーダー

H4 逆張りで伸ばそうとしているトレーダー

D1 順張りで短期逆張りの押し目買いを狙うトレーダー

W1 逆張りでトレンドフォロー初動を狙うトレーダー

MN 順張りで狙っているトレーダー

様々なトレーダーが、あらゆる時間軸とあらゆるスケーリングの中で相場に身を投じていることを「一律に定義づけすることは不可能」であり、この事実

青牛式トレードマスター講座

を理解することができれば、いかに自分自身の中に「合理的な一貫性」を築き上げ、そのルール内でのみトレードする規律が求められるのかがよく分かるのではないのでしょうか。

そして、この「自分だけ」の一貫した基準に基づいて、その時の相場状況と照らし合わせた時に、**「最も活用しやすいモメンタムの見極めが可能な時だけトレードする。」**

ただし、「いつも秩序だった見極めができるわけではない」という前提に立った上で、「読みやすいパターン」だけを厳選してトレードを行う姿勢が求められるわけですが、ほとんどの人が認識していない事実として、これは**裁量トレードだけに許された特権**だということ。

完全に機械的なシステムトレードでは、相場に秩序があるかどうかを判断することはできず、逆にいうとシステムトレードは秩序にしか対応できません。

※ここでいう秩序とは、自分が活用すべきと認識できるモメンタムを指す。

青牛式トレードマスター講座

つまり、**秩序がない環境でもトレードをしてしまうのであれば、わざわざ裁量でトレードをする優位性は全くない**ということ。

一貫した基準に基づいてトレードできないのであれば、秩序に機械的に対応するシステムトレードを採用した方が遥かに優位だということ。

ただし、完全にシステムチックな一貫性は、そこに秩序があることを前提としており、そうでない場面では、いわゆるチャプつきが発生するわけで、加えて中長期トレンドフォロー戦略を採用しようものなら、かなりの期間にわたって大きなドロウダウンと向き合うことになります。

世界的ヘッジファンドなどが、システムトレードによって年平均20%の利益でも拍手喝采を浴びるという事実を見れば、システムトレードによって秩序を捉える難易度の高さがよく分かるのではないのでしょうか。

完全なシステムトレードでは、そこそこの利益しか上げられないのです。

青牛式トレードマスター講座

それに対し、十分に磨き上げられた裁量トレードであれば、最も活用しやすいモメンタムを見極め、その秩序の範囲内でのみトレードすることが可能であり、「どんな秩序がどれくらい続いているのか」という見極めが緻密であればあるほど、高精度なトレーディングが可能となるのです。

まとめると、いつかは分からないがいつかは訪れる秩序に対応するシステムトレードで稼げる現実的な金額は、良くて年利20%が平均であることに対し、磨き抜かれた裁量トレードであれば、1回のトレードで100%以上の利益率を出すことも可能であり、20%程度の利益であれば日常的に実現できる数字ですよ。

つまり、「秩序を見極める」ために、我々は「わざわざ」裁量トレードを選択しているのです。

青牛式トレードマスター講座

いかがだったでしょうか。

いかにハイテク化が進もうと「人にしかできない」ことがあり、これから先、その優位性は逆説的にさらに大きくなっていくのではないのでしょうか。

裁量トレードにのみ許された優位性を正しく自覚し、その情熱を絶やすことなく技術を磨いていきましょう。

あをうし

